

木材の流通に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。

1. 木材市売り市場は、売買される木材の種類によって原木市売り市場と製材市売り市場に分けられる。
2. 集成材工場は、木造建築物の構造材などの仕口、継手、ほぞなど従来大工が行っていた加工を機械で行う事業所をいう。
3. 木材センターで売買される木材は、木材生産者から買い取られた素材である。
4. 付売問屋とは、産地の荷主から買い付けた木材をせり売りの方法によって販売する問屋をいう。
5. 製材の材種は、日本工業規格で、その厚さ、幅および形状により板類、ひき割り類、ひき角類の 3 種類に大別されている。

正 答 : 1

集材機による集材に関する記述 A～D の正誤の組合せとして妥当なものはどれか。

- A. 自走式搬器は、集材機による集材に比べ索張りが簡単で、移動速度は速く、短距離の集材向きで、架線長は 500m 程度までで使われる。
- B. タイラー式による索張りでは、2 胴集材機を使用し、荷上索を備え、その先端は元柱側に固定する。
- C. エンドレスタイラー式は、2 胴 1 エンドレス集材機を使用して搬器を走行させる索張りで、循環索を備えると横取り集材ができる。
- D. 集運材作業については、安全確保が義務付けられており、林業架線作業主任者を選任して実施する必要がある。

	A	B	C	D
1.	正	正	誤	正
2.	正	誤	正	正
3.	誤	誤	誤	正
4.	誤	誤	正	誤
5.	正	正	誤	誤

正 答 : 3

次の文章は林道の構造に関する記述である。文章中の A～D に入るものの組合せとして妥当なものはどれか。

林道の車道幅員は、走行車両の種類や速度、交通量、搬出量などをもとに決定される。林道規程では、1 車線構造の車道幅は 、路肩の幅は  としており、また 2 車線構造の車道幅は 、路肩の幅は  としている。

	A	B	C	D
1.	2.0～4 m	0.25～0.5m	6.0m	0.5～1 m
2.	1.8～4 m	0.25～0.5m	5.5m	0.5～0.75m
3.	2.0～4 m	0.25～1 m	5.5m	0.5～1 m
4.	1.8～4 m	0.25～1 m	5.5m	0.5～1 m
5.	2.5～5 m	0.50～1 m	6.0m	0.5～0.75m

正 答 : 2